

## 第2回北区地域公共交通会議 議事要旨

◇ 日時

令和2年3月23日（月）午前10時から

◇ 場所

北とぴあ 7F 第二研修室

◇ 会議次第

1. 開会

2. 議題

北区地域公共交通計画策定について

3. 閉会

◇ 出席委員

23名（敬称略・順不同）

会長 久保田 尚

委員 松本 晴光、大前 孝太郎（代理：杉山 徳卓）、尾花 秀雄、  
中村 忠男（代理：富田 博人）、島崎 健一（代理：齋藤 慎太郎）、  
小平 隆宏、宇田 誠二、依田 修、小池 毅、佐藤 尚宣、久我 恒夫、  
堀越 千秋（代理：石川 龍太）、五味 康真（代理：根反 智孝）、  
鈴木 義治、稲垣 茂孝、石田 眞悟、山下 清二（代理：濱田 啓延）、  
熊坂 成夫、中嶋 稔、関根 和孝、横尾 政弘、佐藤 信夫

事務局 土木政策課

◇ 議事内容

1. 開会

- 事務局より開会宣言

2. 議題 北区地域公共交通計画策定について

- 事務局より配布資料にもとづき説明を行った後、質疑応答
- 質疑応答の内容は以下に示す通り

(会長)

2 ページから 8 ページまでは前回の振り返り、9 ページから 11 ページまでは参考資料として区民アンケートについて示されている。事務局からの説明に対して、ご意見などがあればお願いしたい。

(委員)

これまで K バスが運行している地域と運行していない地域では、地域の人の意見が異なるのではないかと思う。

(会長)

K バスがあるところとないところでは、同じ区民でも感じ方や考え方が異なるという意見であるが、今後このようなことを整理することは可能か。

(委員)

現在の K バスは滝野川西地域と王子西地域を運行しているが赤羽の方は運行していない。

(事務局)

現在資料 3 に掲載しているアンケート結果は速報であり、今後クロス集計（地域ごとの意見）で示そうと考えている。お時間をいただき次回お示しできるように準備を進める。

(委員)

滝野川地域の方にも K バスが運行しているが、参考資料の滝野川西地区の回収率 29.4% については、事実上実際にバスが通っていない地域の回答である。滝野川西地域は通っているからよいわけではなく、不便なところもあるので今後考えていっていただきたい。

(会長)

候補地をどのような視点で決めていくかについて 12 ページから 19 ページに示されているが、ご意見ご質問があればお願いしたい。

(委員)

新しい指標の視点 4、5 について、非常に評価できると思うが、地域の暮らしを充実することの具体的なイメージを膨らませるために、観光地や観光資源なども日々の暮らしを充実するものとして位置づけていただけると良い。例えば北区の景観 100 選の中に登録されているものなどを入れていく。どのようなものを点数化していくのか考えていかなければならない。特に視点 4、5 については、新しい考え方として、北区のこれからのあり方を考えるべきである。コミュニティバスで地域の中をうまく連結して移動していくという考え

のもと、区外から北区に来てもらうイメージを持っていただきたい。

(会長)

19ページの視点4、5を追加したことは、良いこととご意見をいただき、その上で視点4の日々の暮らしを充実するというのは、具体的にどういうものが日々の暮らしなのかという点について、例えば観光のような視点も入ってくる。視点4、5を追加した背景をお聞きしたい。

(事務局)

現在運行しているKバスの視点として、公共交通機能向上と高齢者等の移動支援、高低差の大きい区の特徴などのバリアフリー的な視点を設けてKバスを運行している。運行開始から10年以上経ち、新たな視点が必要と考えており、その上で今回新たな視点4、5を設定している。日々の暮らしの充実として、従業員者数(仕事へ向かう人)などの通勤の方の視点、高齢化進展による買い物難民などの視点を加えて日々の暮らしの充実としている。観光の視点については、より北区へ来ていただく視点について、指標を検討していく。

視点5については、町会や自治体への加入率は年々減少している。人が移動することにより、北区内の関係が深まっていくことがあるので、移動を手助けすることにより地域の絆が高まっていくだろうということで指標5を追加している。コミュニティバスそのものを導入していただきたいというストレートな意見とともに、公共交通をきっかけに地域の絆づくりにつなげていきたいと考えている。

(委員)

視点5の絆づくりを支援するということは視点2、3に関連する。高齢者が移動するには非常に不便な状況。北区の高低差について、全体的に上下激しいため、そのような点を見ていただきたい。

(事務局)

滝野川地域が走っているからいいのではなく、北区全体の公共交通機能を向上させるための視点を1~5まで総合的に判断していく。現在走っているところがあるからよいというわけではなく、新たな視点で全体を見直していく。その中で、高齢者の移動支援を最後の視点5に関わってくるところもあるので、この点についても総合的に検討させていただきたい。

(委員)

現在運行している滝野川地域も考え直すということであるのか。

(事務局)

既存バスのKバスの見直しについては別の議題であり、今回は新たに導入する検討のことだが、現在滝野川地域が走っているからよいということではなく、既存の路線バス(国際興業、都バス、Kバス、都電を含め)の状況を踏まえ、さらに新たなバスを導入していくためには、どこが望ましいかの視点を含め検討していく。Kバスの見直しについては別途行う。今回は新たなコミュニティバス路線を導入したいということで視点を示している。この

検討では新たに走らせるコミュニティバスの検討を行う。それとは別に、既往のKバスの運行経路の見直しへの意見もあると思われるが、それは別途検討することとして、来年度地域公共交通計画を策定していく。

(会長)

次の20ページ以降の指標の提案や新たな候補地の選定についてご意見ご質問などがあればお願いしたい。

(委員)

例えば高齢者が多いなど細かいことについては、北区役所が地域(町字など)のデータを持っていないのか。要望が多い地域のところなどは把握できないのか。

(事務局)

前回の会議にて高齢者世帯や人口のデータは示している。国全体の調査で、北区の世帯人口等の調査を行っており、そのほかにも様々なデータを所有している。それらを活用して地域別の評価をしていく。一方、個々の要望等については、個人や自治会から頂いているが、個人単位や自治会だけの要望を用いて指標化するのは難しい。今回の区民へのアンケートは全域の区民から回答をいただいたので、それを地域の評価に活用していく。

(委員)

指標1~5について、指標1が公共交通機能の向上ということで、指標の中でも地域の面積に対して公共交通の利用圏域外面積が大きいほど高評価となっている。今回は新規路線バス導入ということで、細い道路が多いのが北区の特徴と出ているので、公共交通の圏域外の面積が多いが、細い道路が多く、そもそもKバスが運行できないという地域が出た場合、得点の割合が高いがKバスを運行するのが難しい地域が出てくる可能性がある。そのような場合には、コミュニティバスをメインに考えているという話だが、小さいバスを運行するのか、もしくは地域の得点や優先地域などの設定も見直すのか、その点について検討しているのか。

(事務局)

今回の指標については、あくまで地域の優先順位に限定している。その後具体的に路線を地域に落とし込み、複数の路線を設定していくと、道が狭く運行できない地域が出てくると思うので、その点も踏まえて次回地域から具体的な路線を合わせて評価していくことになる。その中で順位が入れ替わることはあり得る。しかし、車両自体については、より小さい交通モードを使用することは考えていない。現在のKバスの車両規模で運行できる地域を選定していく考えである。

(委員)

今回は大きなくくりで、優先地域を7つの地域で分け、その後実際にどこから導入できるかという議論が第3回地域公共交通会議以降にあるという理解で良いか。

(事務局)

その通りである。

(会長)

26 ページについては、参考に点数の付け方を示している。それぞれの指標を1～5まで点数をつけるやり方についての提案となっている。このことについてご意見ご質問があればお願いしたい。

(委員)

これらの点数については、実際に北区内で意見を聞いて回らないと点数が付けられないと思うが、どのようにつけるのか。そこに住んでいる人ならわかると思うが他の場所の人は分からない。

(事務局)

その点については、住んでいる人の意見（アンケートで得た意見）を参考に指標化していく。様々な考えがあるので、一つの視点を抜き出し設定していく。

(会長)

基本的には北区のデータとアンケートのデータを基に点数化していくということである。

(委員)

アンケート項目の地域の公共交通を支える意識の高さについて、地域の公共交通を支えるというのはどういうことなのか。例えば、いろんな運行に対して乗っていくことやボランティアしていくことなのか。アンケートがベースになっているので、そのような意識が分からないまま答えていると思うのでその点について教えていただきたい。

(事務局)

アンケートの設問だけでどれだけの理解が頂けたかということもあるが、このアンケートは区全体の居住者を対象として行っており、これを評価に用いていく。主旨としては、利用していただく、乗って運賃を払っていただく、ということが地域のコミュニティバスを支えていくことになる。支えの仕方については、地域の公共交通に乗るという意識付けなどで、地域の方の利用を促すような取り組みも挙げられる。コミュニティバスの広告などを出す機会もあるのでそこに対して協力をいただくなど様々な形での支援の仕方があると考えている。そこまで具体的にアンケートでお聞きしていないが、今後そのような仕掛けづくりを周知しながら育てていきたいと考えている。今後区民の方へご説明させていただきたいと考えている。

(委員)

例えば、何らかの形で地域の方に金銭的な協力など（広告など周知）をしていただき、運行コストを下げっていくというイメージでよいか。

(事務局)

その通りである。様々な形の支援がある中での一つの例である。

(会長)

具体的な指標については修正が必要であるが、基本的にはこのような考え方で進めていく。

42 ページには今後の進め方、44 ページにはK バスの収支について、45 ページから47 ページには MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）について示されているが、こちらについてご意見・ご質問があればお願いしたい。

（委員）

MaaS（モビリティ・アズ・ア・サービス）について、レベル0 が日本の現状である。地域の公共交通を考えるうえで、例えば将来的にレベル 1～4 にしていくということが全く話し合われていないが、コミュニティバスの検討だけで良いか。小さいところにアクセスするような、他の集落を含めて考えていかなければならない。現状認識として日本は遅れていくことを認識していただき、若い人にイノベーションを起こしていただきたい。ぜひ、公共交通の話も新しい話をしていただきたいと思う。

（事務局）

国の動向を注視して、北区としてなるべくそのような考え方、概念をまとめて行きたい。また、地域公共交通に対する新たな計画を議会から求められているので、新たな（北区）基本計画の中で研究、検討させていただきたいと考えている。

（委員）

K バスの収支の状況について、K バスを見直すことは、あくまで区民の方が利用しやすいようにサービスを更に向上していくということになると思うが、一方で収支の状況が良い中で、参考資料 17 ページに K バスを知らない区民が 3 割以上いるということである。リピーターと区外の人はこちらの利用が多いのか。

（委員）

リピーターが多い傾向である。アンケートを細かくとっているが、65 歳以上が半数以上、一方で小学生や保護者と幼稚園生などが乗っている状況である。区外の人利用は、休日の数%しかない状況であり、利用者は固定している。

### 3. 閉会

- 事務局より、会終了後意見等があれば 1 週間を目処に事務局に連絡いただくようお願いの旨連絡
- 会長より閉会の挨拶
- 事務局より、第3回地域公共交通は令和2年度5月下旬～6月中旬を目処に開催予定である旨連絡